

2040年の多元的社会に向けた 地域包括化システムの深化

- 2020年1月17日
- 新春座談会
- 埼玉県立大学・慶應義塾大学
- 田中 滋

改めて「介護」とは

- 家事援助→三大介護→地域包括ケアシステムの一部
- 生活の再構築
- 自己肯定感
- 多職種連携

① 地域包括ケアシステム深化の過程

- Seamless, Continuous and Comprehensive(1)
 - Seamless:施設・病院と在宅との間に切れ目なく
 - Continuous:在宅生活24時間365日の安心
 - Comprehensive:医介福等の多職種協働 → Integration
 - ⇒ ケア提供論
- Comprehensive(2)
 - 支援を必要とする住民の包摂 → Community
 - 利用者もコミュニティのメンバー cf. 共創

② 地域包括ケアシステム深化の過程

- 「包括」はケア側の連携論から始まったとはいえ、住民の包摂が新しいステージの理解
- 元気な時だけではなく、弱ってからも、医療が必要でも、看取り期であっても
- 赤ちゃんから年寄りまで、障害の有無を問わず...
- 国籍や生まれ、性的志向・性自認を問わず...
- 多様性の尊重、少なくとも排除しない

③地域包括ケアシステムにおける 専門職協働＝サブシステムについて

- コアは尊厳ある看取り・「人生の卒業」支援、在宅医療
- 病院・施設と在宅ケアの連続性、互いの理解
- 「チーム包括ケア」: チーム医療・チーム介護を超えて
- 専門職同士: プランと予後予測の理解共通・学習
- 社会福祉専門職の重要性
- 地域デザイン、地域の景観にかかわる専門性

④ 超高齢社会に備えた準備

- 予防: 社会参加＝役割・自己肯定感・有用感
- 対個人: ケアマネジメント → ライフマネジメント
- 家事支援 + 見守り・安否確認、外出支援、金融取引支援・家電/SNS/ICT支援、介護者支援、居場所...
- 医療法人や社会福祉法人に加え、生協・農協・ワーカーズコレクティブ etc.
- 技術革新が活きる
- 新たな互助 と新たな地域マネジメント

⑤「拠点」「場」「居場所」をめぐって

- 「昼間いる場所」ではない
 - つながり・世代を超えた交流・地域貢献の拠点
- 場の性質
 - ガバナンス、オペレーションの意思決定、オペレーションの展開
- ファシリテータ役の重要性
- 究極の居場所は住みか・見守りつき住宅 cf.介護医療院

⑥まちづくりについて

- 目標: 多元的な参加型社会
- コミュニティデザイン、生活支援コーディネイター
 - 地域の物語づくり
- 共通基盤(プラットフォーム)設定、その上で様々な結合
 - 自由意思による参加
 - 集う、出会う、多様な価値観を学ぶ、受け入れる...
- 住民・働く人、医療・介護などこの分野の専門職に加え、地元雇用主、大学・研究機関、何より元気高齢者